

【目的】飽食の現代、食生活を取り巻く環境の変化は著しく、新たな問題も生じているが、そこには、何を、どれだけ、どのように食べるかを自ら選択し決定する能力が要求される。したがって、食物消費におけるさまざまな背景要因をより詳細に分析することは豊かな生活を構築する上で必須の課題であると考え。本報では、食事と生活や健康の関わりを食物購入の視点から明らかにし、消費者教育の基礎的資料を得ることを目的として調査を実施した。

【調査方法】①時期：1994年12月 ②対象：某女子短大附属幼稚園年長組園児の母親 109名 (平均年齢34.1歳)，回収率77.9% ③方法：質問紙法

【結果および考察】①幸福な家庭生活の条件は、主に、健康、団らん、お金、愛情であり、豊かな食生活もわずかながら見られる。②家計が苦しい時の節約順序は、衣→住→食であり、食を重視する傾向にある。③買物は概して好ましいことであり、食物の購入回数は、週に2, 3回が約6割、ほとんど毎日が3割であり、週に1回もわずかながら見られる。④食物購入時の注意点は、製造年月日、鮮度、価格、添加物、安全性などであるが、栄養バランスにもわずかながら注意している。⑤必ず購入する食物は、主に、牛乳、野菜であり、魚、肉、卵、豆腐・納豆、他に、パンなども見られる。⑥毎日の食事づくりにおける留意点は、半数が栄養バランスであり、薄味、野菜の摂取、食品数などにも留意している。⑦食物(料理)購入の様式は多種多様であるが、同じ食物(料理)でも、手づくり、惣菜や冷凍・加工食品の利用、外食など、各家庭により違いが見られる。